

2 無症状からの感染はほとんどない

JAMA 誌メタ解析論文^b

最も密とされる家庭内での感染を調べたメタ解析論文では（54 件のスタディ、計 77,758 人）、無症状者が家庭内感染を起こすリスク（二次感染率）は平均で 0.7% でした。



学術雑誌ネイチャーコミュニケーションズ掲載の論文^c

中国・武漢で約 1000 万人を調査した結果、300 人の「無症状陽性者」がいたが、その濃厚接触者 1174 人の中で陽性となった人は 0 人であり、無症状からの感染は存在しなかったと結論づけました。



3 コロナは空気感染

新型コロナは当初飛沫感染と言われていましたが、厚労省、WHO、CDC は正式にエアロゾル感染、すなわち空気感染であることを認めました。

空気感染においては、マスクをしていても人が呼吸する限り、その空気中に含まれるウイルスを吸い込んだり、吐いた息がマスクの外に漏れ出るのを防いだりすることはできません。

空気感染を防ぐには換気が最も効果的であるとされています。したがって屋外でのマスクは無意味どころか口と鼻周りの換気を阻害するため逆効果となり、それを証明する論文も多数存在します。

4 マスクはウイルスや菌の温床となる

マスク着用中、マスクの表面にウイルスは蓄積し、長時間保持されます。

また、呼気によって湿度と温度が保たれているため、付着した雑菌も急速に増殖し、食事の際など着脱時の接触や、唾液や皮脂によって、さらにその汚染は進みます。

マスクの細菌・真菌汚染を調査した論文は数多くあり、20 分を超えて使用する場合、呼気で湿るためフィルター機能が低下し、医療現場ではマスクが細菌汚染源となることから着用が 2 時間を超える場合は、交換するよう警告しています。^d

国内でも第 6 波での死者は、コロナではなく細菌性肺炎が原因であると指摘されています。^e



5 世界中で規制が撤廃されている

オミクロン株が弱毒化し重症化率がインフルエンザと同等となったことを受け、マスク着用が義務化されていたアメリカの全ての州、イギリス、フランス、ドイツ、オランダ、スウェーデン、デンマーク、スイス、ベルギー、ノルウェー、などの多くの国で感染症対策の規制が続々と撤廃されています。これらの国のほとんどはまだ人口あたりの感染者数が日本よりも多い中での判断です。一方、義務化されていない日本では、いつでも好きな時に自分の判断で外すことができる代わりに、誰かが国民に向けて「もうマスクしなくて良いよ！」と宣言してくれることもありません。

それでもやっぱり人の目が気になる・・・

紅白歌合戦では素顔で大勢密集して歌って踊れるのに、学校では体育の時もマスク、合唱は中止。東京マラソンはできるのに、運動会や部活はできない。

こんな一貫性の無い基準のために、いつまで息苦しい生活が続けるのでしょうか？マスクはルールでも、マナーでもありません。

マスクは咳エチケットの 1 つとして、症状がある時に自らの意思で着ければ良く、健康な人が

常時着用したり、他人に強要したり、していない人を非難するのは全く科学的でも理論的でもありません。

そうは言っても、やっぱり人の目が気になるという方は、まず外にいる時からマスクを外してみましょう。

厚労省も屋外ではマスクを適宜外すことを推奨しています。そして周りの人にこのチラシを見せてあげてください。

間違った認識を正し、無意味で不健康なマスク社会を終わらせることが出来るのは私たち自身なのです。

